



1_登別市との交流で選手宣誓をする佐久間斗夢くん 2_ドリブルからシュートを決めた高橋陸斗くん 3_交流を終え、登別の友達との別れを惜しむ白石の子どもたち 4_ベガルタ仙台育成部のコーチから指導を受ける子どもたち 5_宮城県知事杯を受け取る一條拓海くん 6_激しく競り合うFC白石ジュニアーズと東中学校の選手 7_優勝を勝ち取り笑顔を見せるFC白石ジュニアーズの選手たち

サッカーを通して広がる「仲間」と「笑顔」の輪

小学生・中学生サッカーチームがスポーツ交流

■第3回宮城県知事杯U15中学サッカー白石大会 FC白石ジュニアーズサッカークラブが初優勝！

7月30日・31日の2日間、県内外から15歳以下のサッカーチームが集まり、「第3回宮城県知事杯U15中学サッカー白石大会」が白石川緑地公園で開催されました。

大会には新潟、福島、宮城の3県から5チームが参加。本市からは東中と福岡中、FC白石ジュニアーズU15が出場しました。雨が降る中での激闘の末、FC白石ジュニアーズU15が決勝に進出。前回優勝のFC Aganoジュニアユースとの決勝では、前半に2点を奪われ苦しい展開に。ハーフタイムでコーチから「落ち着いて自分たちのサッカーをしよう」というアドバイスで気持ちを切り替え、後半で3点を奪取。見事、逆転優勝を飾りました。

■子ども・いきいき・サッカー教室IN白石 ベガルタ仙台のコーチからプロの指導を学ぶ！

7月31日、ベガルタ仙台育成部のコーチを招いたサッカー教室「子ども・いきいき・サッカー教室IN白石」が大平小学校で開催されました。スポーツを通じて子ど

もたちの健全育成を図ることを目的に“社会を明るくする運動”宮城県推進委員会と白石地区保護司会(疋田正應会長)が主催。市内外のサッカー少年団から約80人が参加し、プロの指導を受けました。

■登別・白石姉妹都市少年スポーツ交流「サッカー大会」 1年振りの再会に喜び、さらなる絆を深める！

8月6日・7日の2日間、本市のサッカー少年団19人が姉妹都市である登別市を訪れ、少年スポーツ交流を目的としたサッカー大会に参加しました。昭和62年度から1年おきにお互いの市を訪問し、野球、サッカー、武道での少年スポーツ交流を通じて、登別市との市民間交流を行っているこの事業。昨年度に白石市で交流した子どもたちが登別市を訪れ、1年振りの再会を喜び合い、市内観光やバーベキューなどを楽しみました。7日の試合では、各市が2チームずつに分かれ4試合を行い、白石市が4勝0敗の成績を収めました。

この夏、「サッカー」というスポーツを通して、子どもたちは仲間と笑顔を広げ、一回り成長しました。

子どもたちが生き物とふれあう 白川小奥で小川と仲良くなろうを開催

8月4日、白川3区・5区の子どもの会の小学生児童を対象とした「小川と仲良くなろう」(主催：白川小奥地区環境資源保全隊)が、白川小奥地区で開催されました。

この日は、土手川に入り生き物を捕まえ、その生き物がどのような川に住むのかを写真入りのシートで調べたり、水温や川幅、川の水の速さ、周りの草花の様子などを調べたりしました。参加した児童は、「カワナヤスジエビ、ドジョウ、アメリカザリガニなどたくさんの生き物を見つけました。どのような川に住む生き物なのかを知ってとても楽しかったです」と話してくれました。



▲小川に住む生き物の生態などの説明を聞く児童や保護者たち

これからも長生きしてください 佐藤たまさんに祝詞と松竹梅敬老祝金を贈呈

8月18日、佐藤たまさん(旭町)を風間市長が訪れ、16日で満100歳を迎えたたまさんのご長寿を祝福しました。大平森合生まれのたまさん。自慢の和裁を生かして昼は製糸工場、夜は自宅で内職をして家計を手助けしていました。息子の亘男さんには、裸電球の下で毎日針仕事をしている姿が強く印象に残っているそうです。

「好き嫌いなく食べて、歩くことが大事と母は言っていました」と話す亘男さん。そして、「介護は大変なこともあります、このまま元気で長生きしてほしい」と、たまさんへの思いを話してくれました。



▲みんなで100歳を祝いました

高齢者のまごころを届けたい 白石市老人クラブ連合会が元氣袋を寄付



▲元氣袋を届けた白石市老人クラブ連合会の皆さん

7月27日、白石市老人クラブ連合会(川田禎一会長)の皆さんが市役所を訪れ、風間市長に東日本大震災により被災し、本市で避難生活を送っている皆さんに少しでも元気になってほしいと「元氣袋」を寄付しました。

袋は全国の老人クラブの仲間が手作りのもので、袋の中には、メッセージやうめん、生活用具が入っています。川田会長は「避難生活は大変だと思いますが元気を取り戻す一助になればと思います。避難者の方でゲートボールなどに参加したい方は、気軽に声を掛けていただきたいと思います」と話しました。

◎同連合会事務局 ☎48-4126(白石温泉薬師の湯内)

白石の誇りを守りたい 和太鼓倶楽部・蜚が白石城復興のために寄付



▲白石城の前で太齋副市長に寄付金を手渡されました

8月1日、市内の小中学生を中心に和太鼓の演奏活動を行っている「和太鼓倶楽部・蜚」(奥山成美代表)が、白石城復興のために138,980円を寄付しました。白石城開門10周年の平成17年に結成され各地で活動してきた蜚。寄付金は、茨城県土浦市の祭りで演奏を披露した際に、約800人の観客に呼び掛け集めたもの。祭りでは、「天に届け 心に響け 關北魂」と書かれた応援幕が蜚に贈呈されました。リーダーの奥山遙さん(白石高校3年)は、「白石城は私たちの誇りであり自慢。早く元通りになることを願います」と復興への思いを話しました。